

ウズベキスタン公開情報とりまとめ (5月21日～6月10日)

令和3年6月11日

1. 政治

【ミルジヨーエフ大統領動静】

●ミルジヨーエフ大統領とムラシュコ露保健大臣との会談

・5月28日、ミルジヨーエフ大統領は、ウズベキスタンを実務訪問したムラシュコ保健大臣が率いる露代表団と会談を行った。

・保健分野における両国間の実務的協力のさらなる拡大の問題が検討された。

・「ミ」大統領は、(新型コロナウイルスにより浮き彫りとなった)現在の課題により、高度な国際的経験及び最新技術の導入に基づいた効果的な医療システムを開発する重要性が再び示されたことを強調した。国民へのワクチン接種を含む、パンデミック対策において提供された支援及び生産的な協力に謝意が表明された。

・腫瘍学、血液学、ウイルス学、腎臓学、移植学、薬理学、その他の分野を含む優先分野における共同プログラム及び特定のプロジェクトの実施が議論された。「E-Health」の導入及び遠隔医療の幅広い開発に特に注意が払われた。

・タシケント市にピロゴフ名称(露国立研究)医科大学の分校を早急に設立することを含めた、高いスキルを持った医療従事者の養成、並びに露の主要クリニックとの交換プログラムの拡大及び「ウ」の医師のスキルアップにおける緊密なパートナーシップを継続することが合意された。

・「ム」保健大臣は、国民への医療サービスの質を根本的に改善するために「ウ」で実施された改革を高く評価し、露側が「ウ」のパートナーとの保健分野における大規模で体系的な協力の発展、並びに様々な医療分野にける最先端の知識及び高度な経験の共有を行う用意があることを強調した。

(5月28日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領のP4G首脳会合への参加

・ミルジヨーエフ大統領は、5月30日、文在寅・韓国大統領の招待を受け、第2回「グリーン成長及びグローバル目標2030のためのパートナーシップ」(P4G)首脳会合に参加した。

・2日間に亘ったフォーラムの議題には、気候変動の影響の克服、グリーンリカバリー、カーボンニュートラル、持続可能な開発目標の達成、気候に関するパリ協定の規定の実現などが含まれていた。

・ミルジヨーエフ大統領は、アラル海の災害の地球規模の影響を克服することが優先課題の1つとして特定された旨表明した。これに関し、「ミ」大統領は、全ての国際的なパートナーに対し、同大統領のイニシアチブにより今般採択されたアラル海地域を環境イノベーション・技術ゾーンと宣言する国連総会特別決議に対する全面的な支持に謝意を表した。

・同大統領は、特別に設置された国連の信託基金、グローバル・グリーン成長研究所の枠組や、P4Gパートナーシップ及びその他の国際機関のプラットフォームにおいて同分野で共同して積極的な取組を行っていくことを提案した。

- ・同大統領は、気候変動、温室効果ガス及び大気汚染に起因する同地域における越境河川の流量の減少や生態系について深刻な懸念を表明した。
 - ・ウズベキスタンは、パリ協定の枠組における2030年までに温室効果ガス排出を削減する公約を果たす旨のコミットメントを確認した。
 - ・これに関し、「ミ」大統領は、ウズベキスタンにおいて「グリーン」技術を広範に導入し、「グリーン」エネルギー分野のプロジェクトを実施することで、今後10年間で再生可能エネルギー源のシェアを3倍以上に増やすことが可能となる旨指摘した。
 - ・「ミ」大統領は、2022年に国際会議「後発国のためのグリーンエネルギー」の実施、グリーン消費文化を形成するためのグリーン経済の創出に若者を誘致する特別プログラムの開始に係るイニシアチブを提起した。
 - ・同大統領は、この重要な分野における実務的な相互協力を拡大するために、ウズベキスタンはP4Gパートナーシップに参加し、その完全な参加国になる用意がある旨表明した。
- (5月30日付 Gazeta)

●ミルジョーエフ大統領がスルハンダリア州においてUAE企業が投資を行う太陽光発電所の起工式に出席

- ・6月1日、ミルジョーエフ大統領は、スルハンダリア州に到着し、同州シェラバード地区の太陽光発電所の建設現場を視察した。
- ・国内経済の増大する電力需要を満たすために、ウズベキスタンでは多くのエネルギー施設が建設されている。特に、太陽エネルギー利用に多くの注意が払われている。これは、従来のエネルギー資源が限られた現状において重要な役割を果たしている。
- ・本年、「Masdar」社（UAE企業）及び「Total Eren」社（仏企業）は、ナボイ州及びサマルカンド州でそれぞれ100MWの発電容量を有した太陽光発電所を稼働させる予定である。
- ・同時に、シェラバード地区における太陽光発電所の建設の入札が発表された。アジア開発銀行（ADB）が、入札のための財務的・技術的アドバイスを提供した。
- ・同プロジェクトの実施に50社以上の企業が関心を示した。二段階の入札を経て、「Masdar」社が最も安価な価格を提示し落札した。
- ・同プロジェクトの枠組で、「Masdar」社はシェラバード地区に太陽光発電所（発電容量475MW）を建設する。また、スルハン変電所に接続するために、220kWの新たな変電所及び52キロの送電線も建設される。
- ・太陽光発電所のために601ヘクタールの土地が選定された。「Masdar」社は、2億6,000万米ドルの直接投資を誘致する。同発電所の年間発電量10億4,000万kWhで、同プロジェクトの実施により、年間3億4,000万立米の天然ガスが節約され、30万世帯への電力供給が確保される。
- ・同発電所の建設には1,000人が、稼働後には120人の専門家が従事する。同発電所の稼働は、2023年8月に予定されている。
- ・「ミ」大統領は、起工式においてエネルギー効率がよく環境に優しい経済を構築するための活動が「ウ」で実施されていることを指摘した。
- ・「ミ」大統領は、「1kWh当たり1.8セントで電力を購入できる機会は、『ウ』経済にとって非常

に大きな成功であり、国民の福祉を確保する重要な要素である。総じて、同発電所の建設、発電される電力、及び新たなインフラは、スルハングリア州の包括的発展の大きな推進力となるであろう」と述べた。

- ・その後、「ミ」大統領は、太陽光発電所の建設を記念してカプセルを設置した。
 - ・同式典には、テレビ会議形式で、年配者の代表者、ラヴァサADB副総裁、スハイル・アル・マルズーイUAEエネルギー・インフラ大臣が出席した。
 - ・同プロジェクトは、「ウ」政府がADBの支援を受けて実施している総発電容量1GWの太陽光発電所建設プログラムの一環である。
 - ・また、サマルカンド州及びジザク州に発電容量200MWの太陽光発電所、カラカルパクスタン共和国ビールーニー地区及びカラウゼック地区に発電容量100MWの風力発電所、ブハラ州及びナボイ州に総発電容量1,500MWの3基の風力発電所の建設が予定されている。
 - ・「ウ」は2030年までに、太陽光発電所の発電容量を5,000MW、風力発電所の発電容量を3,000MW、水力発電所の発電容量を4,000MWに到達させるという目標を設定している。
- (6月1日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・カザフスタン両国首脳電話会談

- ・6月3日、ミルジヨーエフ大統領は、トカエフ・カザフスタン大統領と電話会談を行った。
 - ・二国間の議題及び地域協力の重要な問題が議論された。
 - ・双方は、6月2日にヌルスルタン市で開催された両国首相会談の実りある成果を高く評価した。
 - ・貿易及び物流、産業協力、近代的な運輸・交通及び観光インフラの開発分野における優先プロジェクトのさらなる促進に特に注意が払われた。
 - ・双方はまた、議会間交流の拡大及び今般のタシケント市での上院議長レベルにおける共同委員会初会合の開催(注:同3日に開催)を歓迎した。
 - ・双方は、中央アジアにおける友好及び善隣関係、並びにアフガニスタン和平について意見交換を行った。
 - ・さらに、今後の首脳会談のスケジュールが検討された。
- (6月3日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とアシムバエフ・カザフスタン上院議長との会談

- ・6月4日、ミルジヨーエフ大統領は、ウズベキスタンを公式訪問したアシムバエフ・カザフスタン上院議長と会談を行った。
- ・「ミ」大統領は、首脳レベルの定期的かつ効果的な対話により達成された、現在の高レベルの両国の友好、善隣、戦略的パートナーシップ関係を満足の意を持って指摘した。
- ・「ア」上院議長は、「ミ」大統領の温かい歓待に心からの謝意を表明し、トカエフ・カザフスタン大統領からの挨拶を伝達した。
- ・会談において、両国間の多面的協力のさらなる発展及び深化の問題が検討された。
- ・パンデミックの影響を共同で克服するために、政府、地域、企業レベルの活発な交流が継続していることが強調された。本年に入ってから、相互貿易量は40%増加した。機械工学、繊維産業、運輸、観

光、その他の経済部門にける大規模な協力プロジェクトの策定及び実施が進められている。文化・人的分野のプログラムが再開された。

・ 二国間協力の有望な議題の策定における両国議会の積極的な参加、地方行政及び経済界の幅広い関与を伴った新たなイニシアチブ及び具体的なプロジェクトの推進、並びに地域的及び国際的な重要な問題に関する協力及び調整の強化の重要性が特に指摘された。

(6月4日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・タジキスタン両国首脳会談

・ 両国首脳会談

(1) 大統領府ウェブサイトによると、6月10日、ドゥシャンベの「カスリ・ミッラト (国民宮殿)」において、ミルジョエフ大統領の公式歓迎式典が行われた。

(2) 儀仗兵が並び、両国国歌が演奏された。その後、「ミ」大統領及びラフモン・タジキスタン大統領は、両国の公式代表団のメンバーを相互に紹介した。

(3) 歓迎式典の後、「ミ」大統領と「ラ」大統領による首脳会談が行われ、その中で、双方は、建設的な政治的対話の深化、貿易・経済、投資協力の確立、文化・人的交流の拡大に特に注意を払い、両国の戦略的パートナーシップ及び多面的協力の全領域を詳細に検討した。

(4) さらに、双方は、中央アジアにおける安全保障、安定、発展、国際及び地域機構の枠組における協力について議論した。

(5) 「ミ」大統領は、「我々が下した決定はすべて実行されており、この間に二国間関係は大きく変化した。数字がそれを物語っている。2017年の二国間貿易額は7,000万米ドルであったが、パンデミックにより困難な2020年に初めて5億米ドルに達した」と指摘した。

(6) 「ラ」大統領は、「『ウ』は我々の戦略的パートナーであり信頼できる隣人である。今日、両国関係がダイナミックに発展していることを嬉しく思う。貿易・経済の結びつきは拡大している。文化・人的分野における相互関係は強化されている。特に、地域安全保障問題に関する両国の協調及び緊密な協力を指摘したい」と述べた。

(7) 「ミ」大統領は、タジキスタン独立30周年を祝福し、「ラ」大統領の「ウ」への答礼訪問を呼びかけた。

・ 両国首脳会談後の文書調印式

(1) 大統領府ウェブサイトによると、両国首脳会談の結果を受けて、文書調印式が行われた。両国首脳は、共同声明に署名した。

(2) 両国首脳の出席の下、両国の投資企業の設立、鉱業における産業及び新技術分野の協力、ザラフシャン川における2基の水力発電所 (発電容量320 MW) 建設プロジェクトのための合弁株式会社の設立、貨物輸送に関する署名された協定の交換式典が行われた。

(3) さらに、外交使節団の土地区画の相互提供に関する協定の修正、国民の相互訪問に関する協定への変更導入、両国外務省間の協力プログラム、農業分野における協力の発展のための「ロードマップ」に関する議定書が署名された。

(4) エネルギー、運輸、自動車、電気工学、鉱業、軽工業、科学、教育、スポーツなどの分野をカバーする合計35の文書が署名された。

(5) 会談において、双方は、新たな成長分野を特定し、来年の貿易額を二倍にすることを目標として設定した。両国首脳は、両国地域の可能性を最大限に活用し、地域レベルでそれらを「結びつける」ことで合意した。

(6) 両国首脳は、「ミ」大統領のタジキスタン訪問の前日に開催された地域フォーラム及び経済評議会の実りある成果、並びに「ミ」大統領の同国訪問中に10億米ドル以上の契約及び投資協定が署名されたという事実を満足の意を持って指摘した。

(7) 両国は、運輸及び輸送分野における協力を深化させることへ相互に関心を有している。会談において、両国首脳は、鉄道、道路、航空輸送を増やすための好ましい条件をさらに創出することで合意した。

(8) また、両国首脳は、文化、科学、医療、教育分野における相互交流を強化することで合意した。「ミ」大統領は、「我々は両国に建設された医療センター及び教育機関の活動を包括的に支援するつもりであり、今日それらが友情及びパートナーシップを強化する新たな象徴となっている」と述べた。

(9) 「ミ」大統領は、2025年を国際氷河保護年と宣言し、氷河保護のための特別基金を設立するという「ラ」大統領のイニシアチブを「ウ」が全面的に支持する旨表明した。

(6月10日付 Gazeta)

【外政】

●シルクロードビザの導入に向けたウズベキスタン・カザフスタン両国による最終調整

・アブドゥハキモフ副首相兼観光・スポーツ大臣は「RIA ノーヴォスチ」に対し、ウズベキスタンとカザフスタンは、「シルクロードビザ」（数次観光ビザ）の導入に関する技術的な問題を全て解決したが、国内における手続がまだ残っていると述べた。

・「ア」副首相は、「（シルクロードビザが導入される）正確な日程は二国間委員会によって決定される。我々は全ての技術的問題を解決し、合意に達しようとしている。我々は国内の承認手続を行わなければならない」と強調した。

・「ア」副首相は、同プロジェクトの実施に際し、外国人が（同ビザ取得の）申請書を提出することができるポータルが用意され、48時間以内に申請書に対する回答を得ることができると述べた。

・「ア」副首相は、「他の多くの国が（シルクロードビザの導入）プロジェクトへの参加を希望しており、キルギスは非常に積極的で、アゼルバイジャンとの交渉も進行中である。タジキスタン、モンゴル、コーカサス諸国もこのプロジェクトに参加する可能性がある」と付言した。

・以前、カザフスタン文化省は、「シルクロードビザは、シルクロード諸国版シェンゲンビザになるあらゆる可能性を秘めている」と述べた。

(5月18日付 Kun. uz)

●米軍の中央アジアへの配置に関する露外務次官コメント

・ルデンコ露外務次官は、アフガニスタンから撤退した米軍が中央アジアに再配置される可能性について、「中央アジア地域の安全確保のために、中央アジアに米軍を配置する必要はない。」とコメントした。

・ルデンコ次官は、バルダイ会議において、「中央アジア諸国は、米軍などいなくとも、自国の国境や

国内の安全を確保することができる。」と語った。

・ナリシユキン露対外諜報庁長官は、「我々は、米国がアフガニスタンから撤退させた米軍を近隣諸国に配備しようとしているという情報を得ている。露は、同盟国だけでなく、集団安全保障条約（CS TO）参加国に対しても、米国の試みに同意しないよう求める。」と語った。

・「ウ」国防省は、以前、外国の軍事基地を国内に配備することはできないと表明している。

・「ウ」の防衛ドクトリンは、自国の軍隊が国外での平和維持活動や軍事紛争に参加しないことを定めている。

（5月20日付 Sputnik）

●ブリアンEU特別代表（中央アジア担当）のウズベキスタン訪問結果

・カミーロフ外務大臣との会談（5月24日付外務省ウェブサイト）

（1）5月24日、カミーロフ外務大臣は、ブリアンEU特別代表（中央アジア担当）と会談を行った。

（2）「カ」大臣は、「ブ」氏の特別代表（中央アジア担当）としての任務が成功裏に完了したことを祝福し、ウズベキスタンとEUとの間の関係発展に対する同氏の個人的な貢献を強調した。

（3）会談において、双方は、近年、「ウ」とEUとの政治的対話及び全面的な協力が大幅に強化されたことを満足の意を持って指摘した。政治、外交、貿易・経済、文化・人的分野における建設的な協力のさらなる拡大が議論された。

（4）会談において、政治・安全保障に関する「EU－中央アジア」ハイレベル対話及び「『ウ』－EU」協力評議会会合を含む、今後の合同イベントのスケジュールが検討された。

（5）また、本年7月15日～16日にタシケント市で開催される国際ハイレベル会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」の準備状況についても意見交換が行われた。

（6）会談には、エイドリアン在「ウ」EU代表部大使も同席した。

・ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣との会談（5月24日付同省ウェブサイト）

（1）5月24日、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、「ブ」EU特別代表と会談を行った。

（2）会談において、「ウ」とEUとの間の政治、貿易・経済、投資、金融・技術、文化・人的協力の現状及び見通しが議論された。

（3）会談において、双方は、実務的協力のさらなる拡大の優先分野を特定した。「ウ」とEUとの間の貿易額の増加のための共同作業を強化することで合意した。「ブ」特別代表は、輸出業者及び関連省庁間における一般特惠関税制度「GSP+」への関心を高めるためのセミナー及びその他の必要なイベントをEUが支援する用意があることを表明した。

（4）「ウ」のWHOへの加盟のための協力も継続している。近い内に、商品及びサービス市場へのアクセス、並びに農業支援のための二者間交渉が行われる。さらに双方は、本年末までの承認を目指した拡大パートナーシップ・協力協定のテキストの合意に関する交渉を強化することで合意した。

（5）会談の最後に、双方は、議論された相互協力の分野の枠組におけるさらなる実践的行動を特定した。「ブ」氏は、近い内に特別代表としての任務を終える旨を発表し、これに関して「ウ」側は、中央アジアにおける地域協力の強化、地域統合の推進、及び安全保障の強化に対する（同氏による）多大なる貢献に謝意を表明した。

(5月24日付外務省ウェブサイト他)

●カールギヤル・アフガニスタン官房長官のウズベキスタン訪問結果

・ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣とカールギヤル・アフガニスタン官房長官との会談

(1) 5月25日、アフガニスタン政府及びビジネス界のウズベキスタン訪問の枠組において、(スルハンダリア州)テルメズ市において、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、カールギヤル・アフガニスタン官房長官と会談を行った。

(2) 会談において、政治、投資、貿易・経済、運輸分野における協力の重要な問題が議論された。

(3) 議題の重要なテーマは、「マザーリシャリーフーカブールーペシャワール」鉄道の建設及びその実現の実務的側面であった。双方は、フィールド調査の実施、設計・見積文書の作成、プロジェクトの資金調達の問題を検討し、それぞれについて適切な決定がなされた。本年2月、タシケント市でのハイレベルの三国間作業部会会合において達成された合意の実施の加速化のためのさらなる措置が特定された。

(4) また双方は、(本年)4～5月のパキスタンからアフガニスタンを経由した「ウ」(へのルート)及びその反対ルートの試験的な自動車ラリーの成功を歓迎した。双方は、両国の運輸・輸送能力をさらに発展させるために同分野における協力を継続することで合意した。

(5) 産業協力の発展に重点を置いた二国間の投資パートナーシップの拡大のための作業を強化する緊急性が強調された。軽工業、電気工学、建築資材の生産、農業、皮革・履物、食品産業がこの計画で最も有望とされた。

(6) また、貿易・経済協力の深化の見通しが議論された。過去4年間で、相互貿易額は、1.5倍に増加し、昨年末には約8億米ドルに達したことが指摘された。双方は、二国間貿易量を今後数年間で20億米ドルまで増加させることを確実にするための共同措置を実施する用意があることを確認した。両国の関係省庁は、貿易協力を強化するために、年末までに署名することを視野に入れた特惠貿易協定の草案の合意を加速化することで合意に達した。

(7) 自由貿易地区「テルメズ国際貿易センター」の大きな可能性も指摘された。双方は、両国の企業家をこのプラットフォームのリソース及び機能を利用した協力を参画させるための共同措置を出来るだけ早く策定することで合意した。

(8) エネルギー分野における協力の問題、特に「スルハンプリムリ」送電線の敷設プロジェクトの実施の加速化が議論された。双方は、必要なプロジェクト文書の策定のための実務的協力の方法を議論し、敷設作業の開始のためのさらなる行動を特定した。

(9) 保健分野における協力の確立の見通しも言及された。特に双方は、両国民に幅広い医療サービスを提供するシステムを確立することを目的として、両国国境地域にハイテク設備及び必要な医薬品を備えた近代的な医療センターを設立することへの相互の関心を表明した。

(10) また、本年9月にカブール市において、二国間貿易・経済協力に関する政府間委員会の次回会合を開催する見通しが議論された。

(11) 会談の結果、議論された協力分野の枠組における共同プロジェクト及びイニシアチブの推進のためのさらなる行動が合意された。

・ウズベキスタン・アフガニスタンビジネスフォーラムの開催

(1) 5月25日、アフガニスタン代表団のウズベキスタン訪問の枠組で、テルメズ市において、ウズベキスタン・アフガニスタンビジネスフォーラムが開催され、両国のビジネス界及び官界の300人以上の代表者が出席した。

(2) ビジネスフォーラムの結果、「ウ」商工会議所とアフガニスタン商工会議所連盟との間における2021年～2022年の協力に関する「ロードマップ」、並びにアフガニスタンへのガラス、繊維、化学製品、医薬品の供給に関する多くの産業協力プロジェクト及び輸出協定が署名された。

(5月26日付投資・対外貿易省ウェブサイト)

●カミーロフ外務大臣のトルクメニスタン訪問結果

・ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領との会談

(1) 5月26日、カミーロフ外務大臣が率いるウズベキスタン代表団がアシガバードを実務訪問し、ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領と会談を行った。

(2) 「カ」大臣は、ミルジヨーエフ大統領の心からの挨拶を（「ベ」大統領に）伝達した。

(3) 会談において、首脳レベルの訪問の枠組で達成された合意の実施状況について意見交換が行われた。

(4) 二国間の議題及び地域協力の重要な側面が検討された。主に運輸、エネルギー、機械工学、軽工業、食品産業、農業、水管理における貿易、投資、産業協力分野の既存の可能性を十分に活用する重要性が強調された。

(5) 会談において、相互が関心を有するその他の問題も議論された。

・メレドフ・トルクメニスタン副首相兼外務大臣との会談

(1) 5月26日、カミーロフ外務大臣は、メレドフ・トルクメニスタン副首相兼外務大臣と会談を行った。

(2) 会談において、政治・外交、貿易・経済、運輸・輸送、水管理、文化・人的、その他の分野における両国関係の現状及びそのさらなる強化の見通し、地域間交流の拡大が議論された。

(3) 国際及び地域組織の枠組における相互協力の問題も検討された。

・水資源に関する二国間文書の署名

(1) 5月26日、アシガバード市においてウズベキスタン代表団の（トルクメニスタン）訪問の枠組において以下が署名された。

ア 水管理問題に係る「ウ」・トルクメニスタン政府間共同委員会に関する両国政府間の合意

イ 補償を条件とした土地利用に関する両国政府間の協定の追加合意

(2) 「ウ」側はカミーロフ外務大臣が、トルクメニスタン側はメレドフ副首相兼外務大臣が署名した。

(3) これらの文書の署名が、友好及び善隣の精神に基づき、合理的かつ公正な国境を跨いだ水資源の共同利用におけるさらなる突破口となる旨の確信が表明された。

(5月26日付外務省ウェブサイト)

●タリバーンが隣国に対し外国軍基地の拒否を要求

・「RIA ノーヴォスチ通信」に届いた声明において、タリバーンは、米国が中央アジアに米軍基地を配置することを計画している旨の報道を受けて、アフガニスタンと国境を接する国々に対し、外国軍基地を配

置させないよう求めた。

・5月中旬、ウォール・ストリート・ジャーナルは、「米国は、アフガニスタンから撤退させた米軍を中央アジア地域又は中東地域に配置することを計画している。ウズベキスタン及びタジキスタンが有力な候補地とされている。」と報じた。

・タリバーンによる声明では、「最近になって様々なメディアが米国の声明を引用し、米国は、アフガニスタンからの撤退後も米軍を（アフガニスタンの）近隣地域に残留させることを計画している旨報じている」とした上で、「まさに、外国軍の存在が、同地域における安全性の欠如や戦闘行為の根本的な原因である」旨述べられている。

・また、タリバーンは、同声明において「我々は幾度となく、我々の国土を他国の安全保障に対抗するために利用しないことを公言している。（反対に）隣国に対しては、自国の領土や領空を我が国（アフガニスタン）の安全保障に対抗するために利用させないよう求める。」と呼びかけた。また、「すべての災難や困難に対する責任は、このような過ちを犯した側が負うことになる」としている。

・2018年1月に採択されたウズベキスタン防衛ドクトリンでは、国内への外国軍基地及び施設の配置が禁じられている。

（5月26日付 Gazeta）

●アリーポフ首相のC I S 首相評議会会合への出席

・（5月28日、）アリーポフ首相が率いるウズベキスタン代表団は、ベラルーシを訪問し、独立国家共同体（C I S）首相評議会定例会合に出席した。

・同会合において、C I S 諸国の首相らは、感染症対策計画を承認した。同計画の目的は、感染症の拡大防止、並びにC I S 諸国の感染症対策能力の向上である。

・またC I S 諸国の首相らは、いくつかの条約を締結した。締結された条約には、衛生保護及び雇用分野における協力、並びに測地学、地区作成における相互協力に関する1992年に合意された議定書が含まれている。

・さらに、2030年までの国有財産管理機関間の協力コンセプト、並びに2025年までの口蹄疫の予防及びその対策に関する包括的措置が承認された。

（5月28日付 Kun. uz）

●徳田欧州局参事官とシディーコフ外務次官とのオンライン会談

・5月28日、シディーコフ外務次官は徳田修一・日本外務省欧州局参事官（中央アジア特別代表）とビデオ会議形式で会談を行った。

・会談では、両国の多面的関係の現状及び展望、今後予定されている共同事業の準備状況、国際機関及び多国間機構の枠組における協力の重要な問題について検討が行われた。

・双方は、2019年のミルジヨーエフ大統領の日本公式訪問以降、本年5月12日にはミルジヨーエフ大統領と菅総理大臣との電話会談が行われるなど二国間関係が著しく活発化していることに満足の意を示した。

・この文脈において、二国間関係の水準の高さを維持し、戦略的パートナーシップを更に強化し、これまでに達成された合意を実施し、新しい有望な投資プロジェクトに従事する重要性が強調された。相互

貿易量の増大や貿易品目の多様化の必要性が指摘された（ママ）。

・教育分野における相互協力、特にウズベキスタンの若者の日本語学習を刺激するための必要な措置の採用について特に注意が向けられた。

（5月28日付外務省ウェブサイト）

●中央アジア諸国首脳協議会合のさらなる発展の必要性：論説記事

・直近の中央アジア諸国首脳協議会合は2019年にタシケントで行われた。2020年に（ビシュケクで）開催される予定であった第3回会合はパンデミックにより延期された。その後、同会合は2021年にトルクメニスタンで開催されることが発表された。

・アサードフ・ウズベキスタン大統領報道官によると、中央アジア諸国首脳協議会合の開催に向けた議論は継続されているが、現時点で具体的な開催日程は未確定である。

・「ア」報道官は、「我々はパートナーと共に次回会合の準備を検討している。非常に広範かつ重要な文書の署名が準備されている」と述べた。

・5月26日、カミーロフ外務大臣は、アシガバードにおいて、ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領及びメレドフ副首相兼外務大臣と会談を行った。アシガバードにおける会談に関する「ウ」側の発表によると、中央アジア諸国首脳協議会合の準備が議論され、トルクメニスタンが同会合を主催する用意ができているといういかなる情報もない。

・「ミ」大統領のイニシアチブにより立ち上げられた第1回中央アジア諸国首脳協議会合は2018年にヌルスルタンで、第2回会合は2019年にタシケントで開催された。しかし、中央アジア各国首脳が出席したいずれの会合においても重要な決定は下されなかった。

・「ア」報道官による新たな情報によると、次回の首脳会合において多くの重要文書が署名される可能性がある。特にキルギスとタジキスタンとの間で発生した対立が最近深刻な武力衝突に発展したこと、両国に犠牲者及び多くの負傷者が出たことを考慮すると、国境地域の問題がこれらの文書に含まれる可能性が高い。

・中央アジアの指導者らは、キルギスとタジキスタンとの間の対立に関する声明を発表した。特に、トカエフ・カザフスタン大統領は、次回会合で国境問題を議題として取り上げるよう呼びかけた。

・以前、国境における対立は、「ウ」とキルギスとの間でも発生した。フェルガナ州ソフ地区における衝突で、住宅が焼かれ犠牲者が出た。

・（ソ連崩壊後の）中央アジア地域における長年に亘る緊張を経て、中央アジア諸国首脳が一堂に会する会合が再開されることは、地域関係の発展に向けた大きな一歩として専門家らに歓迎された。

・しかし、中央アジア諸国首脳協議会合が立ち上げられてから4年が経過しようとしているが、このフォーマットは当初期待されていた成果を上げられていない。同会合は形式的なフォーマットから脱することができていないため、中央アジア諸国首脳による中央アジアの相互協力組織の設立の必要性が指摘されている。

・中央アジア諸国首脳協議会合の再開を後押ししている「ウ」は、中央アジアを外交政策の優先分野として位置付けているが、「ウ」政府は中央アジアの地域組織を設立するイニシアチブからは距離を置いている。「ミ」大統領は、首脳会合のイニシアチブに言及し、非公式の中央アジア諸国首脳協議会合はいかなる組織の設立の問題も議論しないことを強調した。

・しかし、中央アジアにおける最近の情勢、特に国境地域における対立の悪化、米軍のアフガニスタンからの撤退に伴う安全保障環境の不安定化の可能性により、中央アジア諸国首脳による形式的な会合ではなく、規定、目的、課題が明確に定義された中央アジア諸国首脳が参加する組織の必要性が大幅に高まっている。

（6月1日付 Amerika Ovozi（ウズベク語版ボイス・オブ・アメリカ（VOA）））

●アリーポフ首相とトカエフ・カザフスタン大統領との会談

・カザフスタン大統領府広報部によると、6月2日、トカエフ・カザフスタン大統領は、アリーポフ首相と会談を行った。

・会談において、「ト」大統領は、両国関係の発展及び友好の絆の強化への貢献を称えて、「ア」首相に対して第2級「ドストゥク（友好）」勲章を授与した。

・「ト」大統領は、（両国）政府は活動ペースを落としてはならず、ポスト・コロナ期における両国の貿易・経済関係の強化のために現存のあらゆる可能性を利用することが重要であると述べた。

（6月2日付 Gazeta）

●アフガニスタン駐留米軍の3分の1が撤退を完了

・米軍中央司令部は、アフガニスタン駐留米軍の3分の1を既に撤退させた旨報じた。

・報道では、「同司令部の評価によれば、既に撤退プロセスの30～44%が完了している。」と報じられている。

・また、同司令部は、「物資を積載した約300機の搬送機が既にアフガニスタンから撤退し、1万3,000点の機材が再利用のために、アフガニスタン防衛省の機材等確保機関に引き渡された。また、6か所の施設が公式にアフガニスタン防衛省に移譲された。」と報じた。

・4月中旬、バイデン米大統領は、アフガニスタンからの米軍撤退を表明した。撤退は、ニューヨーク同時多発テロの発生から20年の節目となる本年9月11日までに完了される予定である。

・ウォール・ストリート・ジャーナル紙は、「米はアフガニスタンから撤収した部隊や軍事機材を中央アジアまたは中東に配置する案を検討している。」と報じている。

・5月中旬、ウズベキスタンのミルジヨーエフ大統領は、「米軍撤退後のアフガニスタンの平和維持に関する努力が重要である。」と指摘した。

・「ミ」大統領は、「米軍やNATO軍のアフガニスタンからの撤退後、我々の努力によってアフガニスタンの状況はどのようになるであろうか。他国にとっては、アフガニスタンは遠い国かも知れないが、我々にとっては隣国である。もしも、川の向こう（当館注：アフガニスタンとの国境であるアムダリア川）で紛争が発生した場合、『ウ』がこれまでに行ってきた努力にどのような影響を与えるだろうか。我々は、このことを念頭に置いて、アフガニスタンの平和維持のために日々努力していかねばならない。我々は常に最悪の事態に備えておく必要があるが、備えがあれば何も恐れることはない。」と語った。

（6月2日付 Gazeta）

●ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣のタジキスタン訪問結果

・サイド・タジキスタン第一副首相との会談

(1) 6月5日、ウズベキスタン政府代表団のタジキスタン訪問の枠組で、ドゥシャンベ市において、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、サイド・タジキスタン第一副首相と会談を行った。

(2) 会談において、二国間関係の現状及びその発展の見通し、並びにミルジヨーエフ大統領のタジキスタン訪問に向けた準備及び関連イベントの開催に関する問題が議論された。

(3) 過去数か月に亘って実行されてきた、貿易・経済、投資、地域間協力の強化及び両国のビジネスコミュニティの親交を目的とした両国省庁の集中的な共同作業の結果が検討された。

(4) この交渉過程において、両国の関係省庁及び経済主体の共同行動を調整するために採用された体系的なアプローチにより、短期間での具体的な成果の達成及び二国間協力の規模の大幅な拡大が可能となった旨指摘された。その証左は、大規模投資プロジェクト及び貿易協定の実施に関する一連の合意である。それらの関連文書は、本年6月9日にハトロン州ポフタル市で開催される第1回両国地域フォーラムにおいて署名される予定である。

(5) 双方は、既存の関税・非関税措置の逐次的な廃止及び「ウ」・タジキスタン製品の両国市場へのアクセスの簡素化を通じた、投資協力の発展のための優先分野について議論するとともに、二国間貿易の発展のための環境を改善する共同作業を強化することで合意した。これらの措置により、近い将来、二国間貿易額を10億米ドルにする課題を達成できる旨の確信が表明された。

・ムフリッディン・タジキスタン外務大臣との会談

(1) 6月5日、「ウ」副首相は、ムフリッディン・タジキスタン外務大臣と会談を行った。

(2) 政治、経済・貿易、投資、文化・人的協力の現状及びその深化の見通しが検討された。

(3) 文化・人的分野における積極的な協力を継続することで合意に達した。特に、文化人、芸術家、科学者、並びに両国の地方の若者の相互訪問を組織化することで合意した。

タシケント、サマルカンド、テルメズ、ドゥシャンベ、フジャンド、ペンジケントなどの両国の主要都市間のバス交通の再開の見通しが検討された。観光ブランド「シルクロード」の促進及び「Ziyorat（巡礼）観光」プロジェクトの実施に関する共同作業について合意した。

(4) また双方は、国連、上海協力機構、その他の国際場裏など国際的・地域組織の枠組における協力を発展させることで合意した。

(5) 会談の最後に、議論された協力分野の枠組におけるさらなる行動が特定された。

・カビール・タジキスタン産業新技術大臣及びザヴキゾーダ・タジキスタン経済発展貿易大臣との会談

(1) 6月5日、「ウ」副首相は、ドゥシャンベ市において、カビール・タジキスタン産業新技術大臣及びザヴキゾーダ・タジキスタン経済発展貿易大臣と会談を行った。

(2) 会談において、二国間の貿易・経済、投資、産業協力を強化するための既存の機会及び前提条件について議論された。

(3) 電気、化学、繊維、皮革・履物、製薬、食品産業における新たな貿易協定のリストの調整を完了することで合意に達した。それらは、(6月10日～12日に予定されているミルジヨーエフ大統領による)首脳レベルのタジキスタン訪問の枠組で署名される予定である。

(4) 会談の結果、両国の産業の競争優位性の詳細な分析、並びに貿易・経済、運輸・輸送協力のさらなる強化のための具体的な提案に基づく産業協力の新たなプロジェクトの策定を目的とした、両国の関係省庁のトップから構成される作業部会を創設することで合意に達した。

(6月5日及び6日付投資・対外貿易省ウェブサイト)

●シェイク・ムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール・サーニ・カタール国副首相兼外務大臣のウズベキスタン訪問結果

・ミルジヨーエフ大統領との会談（6月9日付大統領府ウェブサイト）

（1）6月9日、ミルジヨーエフ大統領は、シェイク・ムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール・サーニ・カタール国副首相兼外務大臣と会談を行った。

（2）両国の多面的関係の更なる発展の問題が検討された。

（3）「ミ」大統領は、近年、二国間協力のダイナミクスが高まっていることを満足の意を持って指摘した。特に、ハイレベルの訪問及び政務協議が行われ、貿易量が増加している。ビジネス・観光交流を促進するために、「ウ」におけるカタール国民の滞在のための査証制度が簡素化された。

（4）「ミ」大統領は、シェイク・タミーム・ビン・ハマド・アール・サーニ・カタール国首長が「ウ」を公式訪問するよう再度招待した。

（5）シェイク・ムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール・サーニ・カタール国副首相兼外務大臣は、「ミ」大統領の温かい歓迎に心からの謝意を表明し、シェイク・タミーム・ビン・ハマド・アール・サーニ・カタール国首長の挨拶を伝達した。

（6）会談において、「ミ」大統領は、同日署名された航空交通に関する政府間協定に基づく、主に貿易、投資、イノベーション、金融・技術分野における実務的なパートナーシップの確立及び拡大の重要性を強調した。

（7）カタールの主要企業及び金融機関の関与を伴う、「ウ」における共同投資基金の設立、産業部門における近代的生産の開始、農産物の加工、インフラの近代化に関する有望なプロジェクトの早期の準備及び推進の重要性が指摘された。

（8）さらに、教育、科学、文化、巡礼観光分野における交流プログラムの実施に対する相互の関心が表明された。

（9）また双方は、国際政治及び地域の議題の重要問題について意見交換を行った。シェイク・ムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール・サーニ・カタール国副首相兼外務大臣は、アフガニスタン問題の平和的解決及び同国の経済復興を促進する「ウ」の積極的な努力を高く評価し支持した。

・カミーロフ外務大臣との会談（6月9日付外務省ウェブサイト）

（1）6月9日、カミーロフ外務大臣は、シェイク・ムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール・サーニ・カタール国副首相兼外務大臣と会談を行った。

（2）これは、カタール外相による「ウ」への初の公式訪問である。

（3）会談において、政治、貿易・経済、投資、運輸・交通、文化・人的分野における両国関係の発展の現状及び見通し、国際機構の枠組における両国の協力が議論された。

（4）様々なレベルにおける今後の公式会談のスケジュール及び組織的側面が検討された。

（5）双方は、アフガニスタンの和平プロセスを前進させ、同国の社会・経済インフラの復興のための共同の努力を継続する用意があることを再確認した。

（6）2021年7月15日～16日にタシケント市で開催されるハイレベル国際会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」へのカタール側の参加に特に注意が払われた。

（7）会談の結果、「ウ」政府とカタール政府との間で、「ドーハータシケント」間の直行便の開設を

盛り込んだ「航空交通に関する」協定が署名された。

・ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣との会談（6月9日付同省ウェブサイト）

（1）6月9日、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、タシケント市において、シェイク・ムハンマド・ビン・アブドルラフマン・アール・サーニ・カタール国副首相兼外務大臣と会談を行った。

（2）会談において、二国間協力の議題の重要な問題及び政治、貿易・経済、投資、運輸・物流、文化・人的分野における二国間パートナーシップの深化の見通しについて意見交換が行われた。

（3）双方は、運輸・物流協力分野に言及し、「マザーリシャリーフーカブルーペシャワール」鉄道の建設プロジェクトの実施へのカタールの参画の見通しを検討し、同分野におけるさらなるステップを特定した。

（4）銀行・金融セクターにおけるパートナーシップの発展について合意に達した。カタール側は、イスラム銀行のメカニズムを「ウ」に導入するために、多くのカタールの銀行の誘致において支援する用意がある旨表明した。

（5）また、サマルカンド、ブハラ、ヒバなどの「ウ」の主要観光都市に近代的なホテル複合施設を建設することを念頭に置き、観光分野における協力の確立の見通しも議論された。

（6）会談の最後に、双方は、本年下半期にドーハ市において、第1回貿易・経済及び科学・技術協力政府間委員会会合、並びに第1回両国経済評議会を開催することで合意に達した。

（6月9日付大統領府ウェブサイト他）

【内政】

●非公認野党「エルク」がジャホンギール・アタジャーノフ氏を大統領選挙の出馬候補として指名

5月26日、非公認野党「エルク」は、ウズベキスタン政府による組織的な圧力がかかる中、緊急の党大会を開催し、歌手のジャホンギール・アタジャーノフ氏を同党の（本年10月24日開催される大統領選の）出馬候補として指名した。

（5月27日付 Amerika Ovoz (ウズベク語版ボイス・オブ・アメリカ (VOA))）

●ウズベキスタン外務省がポーランド人ジャーナリストのアクレジテーションの延長を拒否

・カブルジャーノフ外務報道官によると、外務省は、ポーランド人ジャーナリストのアグネシカ・ピクリツカ氏のアクレジテーション（の有効期間を）を延長しないことを決定した。

・同省によると、同決定は「アルジャジーラTVチャンネル特派員であるピクリツカ氏がウズベキスタンの法律を違反した事件に関連して」下された。

・アクレジテーションが延長されないことを受けて「ピ」氏は自身のツイッターにおいて、「（これは）私を黙らせようとする試みであり、『ウ』がほとんど変化していないことを示すものである。私は『ウ』における人権侵害について発言することを止めない」旨述べた。

・トーロット在「ウ」英大使もこの状況にコメントし、「『ウ』国内で数少ない外国人ジャーナリストの一人である『ピ』氏のアクレジテーションの延長が拒否されたことは遺憾である。メディアの自由とは、たとえ発言内容が批判的であったり、物議をかもすようなものであったりしても、ジャーナリストを支援し保護することである。ジャーナリストは保護されるべきであり、圧力をかけられるべきではない」と述べた。

・本年4月初め、内務省は、ブロガーのバザーロフ氏の周りで起きた事件について偏った報道を行い、法執行機関の信用を失墜させたとして「ピ」氏を非難した。「ピ」氏は、これはジャーナリストとしての自分の信用を失墜させる試みであり、自分がもし実際にメディア法に違反しているのであれば裁判を行うよう要求した。

・本年2月初め、「ピ」氏はアルジャジーラ・「ウ」特派員としてのア kreditation を取得した。以前「ピ」氏は、外務省職員による嫌がらせ及びア kreditation の取得に際して圧力を受けたと述べていた。その後、外務省は「ピ」氏に謝罪した。

(6月2日付 Gazeta)

●カシカダリア州チラクチ地区の住民による電力供給の不備に対する抗議行動

・6月7日、カシカダリア州チラクチ地区エスキアンホル・マハッラのオボドン村の住民が、十分な電力供給がないことに抗議し線路を封鎖した。「ウズベキスタン鉄道」広報部は本件についてコメントを発表した。

・「ウズベキスタン鉄道」によると、住民らは線路を封鎖し、ジュラーエフ同地区長に対して、電力供給が不十分であるため、状況を改善するために（同地区に）より高性能な新たな変圧器を設置するよう要求した。「ジュ」地区長は、6月7日午前9時、電力供給を含めた様々な問題を住民と話し合うことになっていたが、指定された時間に姿を現さなかった。その後、住民が集まり線路を封鎖した。

・同日10時48分、「タシケントーカルシ」間を走行する高速列車「アフロシアブ」号がアイラトム駅を通過する予定であった。「ジュ」地区長は、同列車が同駅を通過する28分前に同駅に到着し、線路を封鎖していた住民らをマハッラ委員会の建物に案内した。その後、同列車は定刻通り同駅を通過し、同列車の通過中に事故は起きなかった

・ライムクーロフ同地区広報部長によると、オボドン村では変圧器の老朽化により電力供給に問題が生じていた。6月7日、「ジュ」地区長は住民らと会談を行い、この問題を解決することを約束した。また、「カシカダリア州電力公社」の責任者も現場に到着し、同村の不十分な電力供給の問題を解決するための作業を開始した。

(6月8日付 Kun. uz)

【治安】

●ウズベキスタンとタジキスタン国境における麻薬密輸入対策を目的とする国境管理事務所の新設

・「ASIA-Plus」によれば、5月18日、鉄道駅であるクドゥクリ駅（ウズベキスタン側）とパフタオボド駅（タジキスタン側）の通関管理地点に2つの国境管理事務所が開設された。

・同事務所は、国連薬物犯罪事務所（UNODC）中央アジア事務所の支援と、両国の関係機関の協力により開設された。

・同事務所は、UNODCの中央アジア支援プログラムのサブプログラムの一つである「国境を越えた組織犯罪、麻薬取引及びテロの防止」の一環として、北部ルートを通じたアフガニスタン産の麻薬の流通防止を目的としている。

・開設に当たっては、米務省国際麻薬・法執行局（INL）から資金提供がなされた。

・すでに、タジキスタンとアフガニスタン、「ウ」とアフガニスタン、「ウ」とタジキスタン、キルギス

とタジキスタン、「ウ」とキルギス、キルギスとカザフスタン、「ウ」とカザフスタンの国境に同様の国境管理事務所が19か所開設されている。

(5月21日付 Gazeta)

●国家保安庁がウズベキスタン各地で薬物を押収

・国家保安庁は、麻薬・向精神薬の特定及び押収事例を数件発表した。

・シルダリア州ヤンギアバッド検問所における薬物の押収

(1) 国家保安庁ブハラ州総局及び国家税関委員会職員の捜査活動の過程で、サマルカンドからタシケントに向かう Lacetti 車が、シルダリア州ヤンギアバッド検問所で止められた。

(2) 車内検査により、二人の乗客から3.16キロのアヘン及び35個の向精神薬が発見され押収された。乗客の一人は外国人であった。

(3) 暫定調査では、サマルカンドの駐車場で、彼らが国際貨物トラックの外国人運転手からこれらの薬物を1万5,000米ドルで購入したことが判明した。

(4) 同駐車場で、トラック車内から1万5,000米ドルが発見され押収された。また、駐車場の納屋に3.96キロのアヘンが隠されていたことが確認された。アフガニスタン産の麻薬が第三国を經由して「ウ」に運ばれたことが判明した。

・フェルガナ州ダンガラ地区における薬物の押収

(1) 国家保安庁フェルガナ州総局の捜査活動の過程で、タシケントからコーカンドに向かう Nexia 車が同州ダンガラ地区で止められた。車内検査により、3人の乗客(タシケント州ベカバード市の住民)から1キロ以上の大麻樹脂(ハシシ)が発見され押収された。

(2) この薬物はタジキスタンにおいて7,000米ドルで購入され、ベカバード地区に密輸された。同総局によると、麻薬の売人はコーカンド市でそれを売りさばくつもりであった。

・フェルガナ州「ウ」・キルギス国境における薬物の押収

フェルガナ州の住民(1987年生)は、キルギスのカダムジャイ地区の住民が「ウ」・キルギス国境の金網越しに投げ入れた1.36キロのハシシを拾い、その後それを売るために自宅に隠した。捜査活動の結果、麻薬は押収された。

・フェルガナ州フェルガナ地区における薬物の押収

フェルガナ地区で、前科のある人物(1981年生)が、自宅で仲間の村人(1981年生)から983グラムのハシシを受け取っていたところを国家保安庁職員に拘束された。隣国からの麻薬の密輸に協力した三人目の人物(1995年生)も拘束された。麻薬はキルギスにおいて6,500米ドルで購入された。

・ナマンガン州における薬物の押収

(1) 国家保安庁ナマンガン州総局職員及び同州税関職員による捜査活動の過程で、カムチク峠検問所において、ナマンガンからタシケントに向かう「ナ」の住民(1987年生)が運転する Nexia 車が止められた。

(2) 同車内の検査により、キルギスから違法輸入された強力な麻薬(「Regapen」カプセル(2,800錠)及び「Tropicamide」ボトル(1,309本))が発見され押収された。

・現在、上記の人物らは刑事起訴されている。

(6月1日付 Gazeta)

●サマルカンド州内務総局及び国家保安庁がシリアのテログループに参加しようとした疑いのある14名を拘束

・内務省広報部によると、ウズベキスタンの法執行機関は、シリアのテログループに参加しようとした疑いのある14名をサマルカンドで拘束した。

・サマルカンド州内務総局及び国家保安庁職員が捜査活動を行い、その中で、被拘束者がソーシャルネットワークを通じてシリア及び中東のテロ組織の影響を受け、同組織に参加しようとしていたことが判明した。

・同省広報部は、「現在本件は、刑法の関連条項に基づき起訴され、捜査が行われている」と付言した。

(6月11日付 Gazeta)

【新型コロナウイルス】

●ウズベキスタンと露が新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」のウズベキスタンにおける共同生産について合意

・「RIA ノーヴォスチ」が「ウ」を実務訪問したムラシュコ露保健大臣の発言を引用し報じているところによると、ウズベキスタンと露は、新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」を（「ウ」で）生産することで合意した。

・5月28日、ミルジヨーエフ大統領は、「ム」保健大臣と会談を行い、遠隔医療を含む保健分野におけるプロジェクトの実施について議論した。

・「RIA ノーヴォスチ」は、「プーチン露大統領と『ミ』大統領の指示の一環として、スプートニクVの『ウ』における生産を現地化することで合意した」と「ム」保健大臣の発言を引用した。

・「ム」保健大臣は、「ウズベキスタン24」とのインタビューで、救急医療及び小児科を含む全くの別分野のプロジェクトの共同実施について語り、「露の専門家がコロナ下において『ウ』で活動していた。その活動の中には、モスクワ・ピロゴフ名称（露国立研究）医科大学タシケント分校の設立が含まれている。これは、『スプートニクV』ワクチンを『ウ』で生産するプロジェクトを実施するための準備でもある」と述べた。

・「ム」保健大臣は、「ミ」大統領を「ユニークな人物」と称し、「『ミ』大統領は我々が（スプートニクVの『ウ』における生産に向けて）迅速に動いているのを見て、まだ十分ではないと言う。我々はこの考えを絶対的に支持する」と述べた。

・「ム」保健大臣は、「ウ」側が露製ワクチン「スプートニクV」の生産場所を選定し、プロジェクトは進行していると付言した。

・なお、4月23日に「スプートニクV」の第一弾のバッチが、4月27日に同ワクチンの第二弾のバッチが「ウ」に届けられた。

・アリーポフ首相は、カザンでのミシュスチン露首相との会談において、「スプートニクV」の供給を増やし、同ワクチンを「ウ」で生産する可能性を検討するよう露に要請した。

・2020年12月、「ウ」製薬産業開発庁は、タシケントファームパークで新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」を生産することを提案した。

(5月29日付 Gazeta)

●露製新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」第三弾のウズベキスタンへの到着

- ・保健省広報部によると、先日、ウズベキスタンは、露製の新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」の新たなバッチ（第三弾）を受領した。
- ・同省によると、7万回分の同ワクチンが届けられた。4月、合計で10万回分の同ワクチンが「ウ」に届けられた（第一弾及び第二弾のバッチでそれぞれ5万回分）。
- ・これにより、「ウ」国内のワクチン備蓄量は443万回分となった。同省によると、これまでのワクチン接種において200万回分以上のワクチンが使用された。
- ・4月末、「ウ」市民を対象とした露製ワクチン「スプートニクV」の無料接種が開始された。
- ・5月末、「Gazeta」は、「ウ」と露が「スプートニクV」を（「ウ」で）現地生産することで合意したと報じた。

(6月1日付 Gazeta)

●ウズベキスタンにおける新型コロナウイルスワクチン接種完了者が34万8,000人以上となる

- ・サナーエフ保健省広報部長によると、ウズベキスタンにおけるワクチン接種完了者は34万8,000人以上となった。「スプートニクV」及びAstraZeneca ワクチンは計2回、ZF-UZ-VAC2001 ワクチンは計3回の接種が必要である。
- ・34万8,302人が（所定回数のワクチン接種を受け）ワクチン接種を完了した。内訳は以下のとおり。
 - (1) AstraZeneca 32万1,906人
 - (2) ZF-UZ-VAC2001 494人
 - (3) 「スプートニクV」 2万5,902人
- ・（4月1日～5月31日の）2か月間で、206万9,518回のワクチン接種が行われた。ワクチンごとの接種回数は以下のとおり。
 - (1) AstraZeneca 64万6,116回
 - (2) ZF-UZ-VAC2001 135万1,807回
 - (3) 「スプートニクV」 7万1,595回
- ・なお、これまでに以下のワクチンが「ウ」に届けられた（合計433万回分）。

- (1) AstraZeneca 66万回分
- (2) ZF-UZ-VAC2001 350万回分
- (3) 「スプートニクV」 17万回分

(6月7日付 Gazeta)

●露製新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」第四弾のウズベキスタンへの到着

- ・保健省広報部によると、ウズベキスタンは、露製新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」の新たなバッチ（第4弾）を受領した。
- ・同省によると、（今回）7万回分の「スプートニクV」（6月の2回目受領分）が届けられた。6月

初旬、7万回分の同ワクチン（6月の1回目受領分）が届けられた。

- ・4月、「ウ」は合計10万回分の同ワクチンを受領した（第1弾及び第2弾で各5万回分）。
- ・これまでに、「AstraZeneca」、「ZF-UZ-VAC2001」、「スプートニクV」を含めて）240万回以上のワクチン接種が行われた（1回目の接種が153万回、2回目の接種が92万回、3回目の接種が2万5,400回（注：「ZF-UZ-VAC2001」のみ合計3回の接種が必要））。
- ・4月末、「ウ」市民を対象とした無料の「スプートニクV」ワクチン接種が開始された。
- ・5月末、「Gazeta」は、「ウ」と露が「スプートニクV」の（「ウ」における）現地生産について合意したと報じた。

（6月10日付 Gazeta）

●中国製新型コロナウイルスワクチン第五弾のウズベキスタンへの到着

- ・保健省広報部によると、6月10日、新型コロナウイルスワクチン「ZF-UZ-VAC2001」の第五弾（100万回分）のバッチが中国からウズベキスタンに届けられた。
- ・「ZF-UZ-VAC2001」の第一弾（100万回分）は3月27日、第二弾（100万回分）は4月27日、第三弾は5月18日（100万回分）、第四弾（50万回分）は5月19日に届けられた。
- ・以前、「ウ」は「AstraZeneca (CoviShield)」（66万回分）及び露製ワクチン「スプートニクV」（24万回分）も受領した。
- ・保健省によると、「ウ」の新型コロナウイルスワクチンの在庫は540万回分に達し、この内240万回がワクチン接種で既に使用された（1回目の接種が153万回、二回目の接種が92万回、3回目の接種が2万5,400回（注：「ZF-UZ-VAC2001」のみ合計3回の接種が必要））。

（6月10日付 Gazeta）

【その他】

特になし。

2. 経済

【景気・経済統計】

●ウズベキスタンの外貨準備高が355億米ドルとなる

- ・中央銀行によると、6月1日時点で、ウズベキスタンの外貨準備高（金保有を含む）は355億米ドルとなり、この1か月で13億米ドル増加した。これは、「ウ」のこれまでの外貨準備高の統計で過去最高額である。
- ・以前の最高額は、2020年末に記録し、12月1日時点で、中央銀行の外貨準備高は349億米ドルに達していた。しかしその後、金の価格の下落により外貨準備高は減少していた。

（6月8日付 Gazeta）

【経済政策】

●ウズベキスタンにおける改善されないビジネス・投資環境事情：論説記事

- ・ジン・ユーロン（Jin Yulong）在ウズベキスタン中国大使館貿易・経済問題アドバイザーは、最近の

(当地報道サイト「Podrobno」との)インタビューの中で、両国間の商業関係の状況について語った。ジン氏は、新型コロナウイルスによる悪影響があったにもかかわらず、両国間の強固な商業関係及び前向きかつ安定した貿易関係があることを賞賛した。しかしジン氏は、一部の中国企業が地方レベルでの規定の誤った解釈に不満を述べており、(企業活動の)実施において困難が生じている旨述べた。

・ジン氏は、この1年間、(両国の)強固な経済関係は維持されてきたと強調した。パンデミックにもかかわらず、中国は(「ウ」にとっての)主要な輸出入相手であり続け、進行中及び新たなプロジェクトに混乱はほとんどなかった。ジン氏は、中国が「ウ」の天然ガスの輸入相手国として第1位、繊維製品で第2位、農産物で第5位であることを指摘した。実際、Observatory of Economic Complexityによると、2019年、中国の「ウ」からの輸入品目トップ3は、天然ガス(「ウ」から中国への輸出量の47.9%)、繊維製品(同20.9%)、原綿(同7.4%)であった。「ウ」の中国からの輸入品目ははるかに多様であり、輸入品目トップ3は、非合金鋼(中国から「ウ」への輸入量の4.02%)、大型建設車両(同3.18%)、石材加工機(2.92%)となっている。

・ジン氏は中国の企業家が直面する課題について語り、「『ウ』に投資する場合、全てがうまくいくわけではない。一部の中国人投資家から我々に苦情が寄せられている。これは、地方当局による規制法の誤った解釈、一部のプロジェクトで見込まれた利益の減少などが原因である。これらの問題を解決するために、我々は『ウ』の関係省庁と緊密に連携し、全ての当事者が納得できる選択肢を探している」と明確に述べた。

・ジン氏の発言は、国内投資及び国外投資の両方に影響を与える「ウ」のいくつかの問題を示唆している。第一の問題は、経済における国家の存在の大きさ及び経済活動の大部分を規制しようとする国家の取り組みである。2018年、ミルジョーエフ大統領自身が、国家の役割の過剰な大きさ、官僚主義、税・関税・銀行分野の問題が、国内投資の成長及び外国資本の幅広い誘致を妨げていると述べた。

・「ウ」政府がいくら熱心に外国投資を刺激し誘致しようとしても、より多くの外国投資に寄与する規制環境が整備されなければ、最終的な結果は変わらない。ラヴシャンベック・アリーモフ上院外交・経済関係・投資委員会委員長は、2020年初め、外務省が1,200件以上のビジネスフォーラムを開催し、(外国から)3,700人以上を「ウ」に招待したが、成果及び投資はほとんど得られなかったと述べた。

・第二の問題は、「ウ」地方政府が国家の規定を彼らの気まぐれにより恣意的に解釈したり、適切な規定を認識していなかったりすることである。これは、企業家及び投資家にとってさらなる障害となっている。この問題は、2019年に「ミ」大統領が知事及び市長らに対して企業家の活動に干渉しないよう指示したことで周知された。

・とはいえ、政府の大きな役割が経済成長にとって逆効果であるという認識が政府首脳レベルにあるにもかかわらず、この現実を覆すことは難しい。ミルジョーエフ大統領は、「真の市場経済への移行は、簡単なプロセスではない。我々が『ウ』に安定した経済を構築し、先進国のように豊かで幸せな生活を送りたいのであれば、それがいかに辛く難しいものであっても、形式的にもしくは何らかの形ではなく、深く考えて真の市場経済のメカニズムを導入すべきであるということを素直に認めなければならない」と述べた。

・(上記のように)中国大使館員のジン氏は中国企業の不満を表明した。一部の投資案件の問題解決に大使館が介入しなければならないのは、「ウ」経済における特有の問題を示している。皮肉なことに、

これらの問題は、国家が経済において非常に大きな役割を果たしていることに起因しており、こうした状況は非生産的である。「ウ」の指導者たち自身がこの事実を指摘している。しかし同時に、「ウ」政府は、その支配的な立場から脱却するために、非常に緩慢なステップを踏んでいる。

(5月25日付 The Diplomat)

●ウズベキスタン政府が一人当たりGDPを2025年までに2,500米ドルに増やす目標を設定

・5月27日、クチカーロフ副首相兼経済発展・貧困削減大臣は、国際フォーラム「国営企業の変革及び民営化：経済変革の新たな段階」において、国有資産の民営化及び国営企業の変革は、経済成長及び一人当たりGDPの増加のための条件の一つとなると述べた。

・「ク」副首相は、「我々は経済成長率、一人当たりGDPの成長率を高めるという大きな課題に直面している。そして、国有資産の民営化及び国営企業の変革が、我々が直面している課題を解決するための原動力、条件の一つであると考えている」と述べた。

・ウズベキスタン政府は、一人当たりGDPを現在の1,700米ドルから2025年までに2,500米ドル、2030年までに4,200米ドルに増やすという目標を設定した。このためには、年間6～7%の高く安定した経済成長率が必要である。

・「ク」副首相は、ミルジヨーエフ大統領が、2021年に6%のGDP成長率を達成するという目標を設定したと述べた。

・「ク」副首相は、「ミ」大統領が、2020年10月27日付大統領令「国営企業の改革及び国家資産の民営化の改革の加速化に関する措置について」及び2021年2月11日付大統領令「国家資産の民営化プロセスのさらなる加速化に関する措置について」に署名したことを想起した。

(5月27日付 Gazeta)

【産業】

特になし。

【対外経済】

●ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣とリグテリンク EBRD 第一副総裁との会談

・6月7日、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、リグテリンク第一副総裁が率いる欧州復興開発銀行（EBRD）の代表団と会談を行い、二者間協力の現状及び見通しを議論した。

・双方は、共同プロジェクトの実施に関する協力の進展について詳細に議論した。現在、ウズベキスタンはEBRDと共同で、エネルギー、インフラ、住宅建設などの分野において、21件（18億米ドル）のプロジェクトを実施している。双方は、住宅・公共事業、エコロジー、インフラ開発、民間セクター分野における新規プロジェクトの策定を加速化することで合意した。

・上下水道改善プロジェクト

(1) 会談の結果、「ナマンガン州チュスト地区、パップ地区、ナマンガン地区の上水道、並びに同州チュスト地区、ミンブラク地区の下水道の改善」プロジェクトの実施（総額7,000万米ドル）の枠組における融資契約が署名された。

(2) これらのプロジェクトの実施により、同州チュスト地区、パップ地区、ナマンガン地区の17万

人以上の住民が、清潔な飲料水を永続的に利用できるようになる。

(3) 同資金は、同地域の7つの農村集落(チャルタク、チュスト、ジュマシュイ、クズル・ロヴァト、パップ、タシュブラク、ウイグル)にサービスを提供する水供給、配水所及び給水ネットワーク、水道本管、水処理プラントの建設及び修繕の支援、並びにチュスト及びジュマシュイ集落の処理施設及び下水ポンプ施設の建設に利用される。

(4) この投資により、新たに約11万5,000人が水供給ネットワークを利用することが可能となる。新たなインフラにより、年間60万立米の水の無駄が解消される。

・また、「サマルカンド市への電気バスの導入」プロジェクトの実施(総額2,000万米ドル)に関する要請書、並びに「グリーンシティ」プログラムの枠組における協力覚書が署名された。同覚書によると、サマルカンド市は、都市インフラの持続可能な発展及び都市住民の生活の質の向上を目的とした、EBRDのフラグシッププログラム「グリーンシティ」の48番目のパートナー都市となった。

(6月7日付投資・対外貿易省ウェブサイト)

●第1回ウズベキスタン・タジキスタン地域間投資フォーラムの開催

・投資・対外貿易省ウェブサイトによると、ミルジヨーエフ大統領のタジキスタン訪問の前日である6月9日、ボフタル市において、第1回ウズベキスタン・タジキスタン地域間投資フォーラムが開催された。

・同フォーラムには、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣、サイード・タジキスタン第一副首相、並びに省庁、銀行のトップ、両国国境州の知事、約300人の企業家が出席した。

・同フォーラムでは、経済分野の有望な共同プロジェクトの実施を支援及び促進することを目的として、「ウ」・タジキスタン投資基金(授權資本5,000万米ドル)が設立されることが発表された。

・同フォーラムの結果、「ウ」投資・対外貿易省付属輸出促進庁とタジキスタン政府付属輸出促進庁との間で協力協定、自動車、変圧器、家電製品の生産、集約化された庭園及び温室複合施設の設立、青果製品の栽培及び加工事業のための合弁企業の設立に関する協定、並びに一連の貿易協定が署名された。署名された一連の文書の総額は、7億3,000万米ドルであった。

(6月9日付Gazeta)

【エネルギー分野】

●中国企業によるフェルガナ州における太陽光発電所の建設計画

・国営通信社「UzA」によると、中国企業「Liaoning Lide」社は、フェルガナ州に推定総額7億米ドルの大規模な太陽光発電所(最大発電容量1,200MW)を建設する予定である。

・同プロジェクトは、ボゾーロフ・フェルガナ州知事と「Liaoning Lide」社との間の会談において議論された。

・「Liaoning Lide」社は、フェルガナ州で初となるこの再生可能エネルギープロジェクトには、銀行融資ではなく、直接投資を誘致する予定であると強調した。また同社は、発電された電力を25年間に亘って購入するための最適な料金体系をウズベキスタン電力網公社に対して提示する用意がある旨表明した。

・同会談後、エネルギー省、フェルガナ州当局、「Liaoning Lide」社との間で覚書が署名される予定で

ある（当館注：2019年9月24日付「Kun.uz」によると、「Liaoning Lide」社は、ブハラ州ギジュドヴァン地区において風力発電所建設プロジェクトを進めている（プロジェクト総額18億米ドル、最大発電容量1,500MW）が、その後の状況については報じられていない）。

（6月3日付 Gazeta）

【運輸交通分野】

●ウズベキスタン・タジキスタン両国運輸次官級協議

・6月3日付タジキスタンの報道サイト「Asia-Plus」がタジキスタン運輸省の発表を引用して報じたところによると、（5月28日、）ムミーノフ・ウズベキスタン運輸省次官とサイドムルゾーダ・タジキスタン運輸省次官が会談を行い、その中で「ソグド州ペンジケント（タジキスタン側）－サマルカンド州ブルングル・ジャンバイ（「ウ」側）」間の新たな鉄道建設プロジェクトが議論された。

・タジキスタン運輸省によると、「『ウ』を通過する危険貨物の輸送に関する」両国政府間協定草案も議論された。

・さらに双方は、疫学的要件に準拠した上での両国間の航空便の再開、並びに「（『ウ』・タシケント州）ベカバード－（タジキスタン・ソグド州）イスティクローベカバード」鉄道区間を通る貨物輸送及び「（タジキスタン・ソグド州）パタルー（『ウ』・フェルガナ州）アンダルホン」検問所を通る道路輸送の再開の可能性も検討した。

・会談の結果、関連する議定書が署名された。

・なお、6月10日～12日、ミルジヨーエフ大統領は、タジキスタンを公式訪問する。

（6月3日付 Kun.uz）

【ドナーの動向】

●UAE慈善基金がヌクス市に母子医療センターを建設

・（カラカルパクスタン共和国）ヌクス市に、アラブ首長国連邦（UAE）慈善基金の助成金に基づき母子医療センターが建設される。

・5月26日、投資・対外貿易省において、テレビ会議形式で、ウズベキスタンにおける社会プロジェクトの実施にハリーファ・ビン・ザーイド・アル・ナヒヤーン名称慈善基金から技術支援を誘致するための二国間協力に関する政府間協定が署名された。

・「ウ」側はヴァファーエフ投資・対外貿易省次官が、UAE側はユニース・ハメドフジャール・フリ（Yunis Hajial Khuri）財務次官が署名した。

・同プロジェクトの総額は2,700万米ドルであり、同基金の助成金により全額賄われる。

・100人の患者を収容出来るよう設計され、設計及び技術設備が唯一無二の新病院は、産前・産後病棟、母親・新生児病棟、母子集中治療室、外科部門、入院病棟、外来・診察部門、研究室から構成される。

・現在、同院の建設作業は既に開始されており、2022年末までに完了する予定である。最新の設備を備えた新たな医療機関は、アラル海地域の住民に提供される医療サービスの質の大幅な向上に資する。

（5月27日付投資・対外貿易省ウェブサイト）

● I F C及びE B R Dが「Indorama Agro」社による綿花栽培プロジェクトへの資金提供に関する協定に署名

- ・ 5月27日、テレビ会議形式で、国際金融公社（I F C）及び欧州復興開発銀行（E B R D）による「Indorama Agro」社のプロジェクトへの資金提供に関する協定の署名式が行われた。
- ・ 署名式には、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣、リグテリンク E B R D 第一副総裁、ベーカー I F C 副総裁、ロヒア・インドラマ社（シンガポール企業）業務執行取締役が出席した。
- ・ 同プロジェクトの目的は、持続可能な綿花栽培の促進及び生活水準の向上である。ウズベキスタンの綿花セクターへの新たな投資は、民間セクターの発展及び産業の近代化の持続可能なモデルのさらなる発展に寄与するとともに、綿花のサプライチェーンにおける農家の生活環境の改善及び新たなスキル・技術へのアクセスを提供する。
- ・ 「Indorama Agro」（インドラマ・コーポレーションの完全子会社）から提供された I F C の 6, 0 0 0 万米ドルの長期融資は、「ウ」のシルダリア州及びカシカダリア州における約 5 万ヘクタールの農地の開発の資金となる。E B R D は、プロジェクトの枠組において、6, 0 0 0 万米ドルの長期融資及び 1, 0 0 0 万米ドルの短期融資を並行して提供している。
- ・ 同プロジェクトの実施は、機械化された綿花収穫の発展に寄与し、土地の整地、水の使用量の最適化のための代替灌漑システムの活用、肥料の効果的な使用、給水及び土地改良システムの近代化、栽培された綿花の処理品質の向上を通して、「Indorama Agro」社の環境及び生産パフォーマンスを大幅に改善する。
- ・ 署名式において、「ウ」側は、同プロジェクトの実施は、大規模な外国及び国際企業の直接外国投資を誘致する推進力になると指摘し、また、I F C 及び E B R D といった国際金融機関による支援は、綿花栽培における国際的なベストプラクティスの導入、同分野における労働者の権利保護のための効果的な仕組みの創出を含む、「ウ」の繊維産業における進行中の改革が認められた証である旨強調した。
- ・ 「リ」 E B R D 第一副総裁は、同行及び I F C による「ウ」の民間企業に対する資金提供の再開により、「ウ」の繊維産業におけるプロジェクトの実施に国際金融機関を誘致することが可能となると述べた。
- ・ 「ベ」 I F C 副総裁は、同行の投資が、最新技術による「Indorama Agro」社の綿の生産及び加工の確立に寄与し、これにより「ウ」繊維製品の国際的な環境・社会基準への適合が確保される旨強調した。
- ・ 「Indorama Agro」社の経営陣は、同社のさらなる目標は、世界基準及び国際ブランドの要件に沿った綿及び他の農産物の栽培であると述べた。
- ・ 署名式の最後に、双方は、「ウ」における民間セクターへの資金提供分野における協力のさらなる拡大のための計画を特定した。

（5月27日付投資・対外貿易省ウェブサイト）

● A D B がウズベキスタンの STEM 教育の発展のために 1 億米ドルを拠出

- ・ 国民教育省が「Gazeta」に伝えたところによると、同省とアジア開発銀行（A D B）は、7年生～11年生までを対象にした STEM 教育発展のためのプロジェクトの実施に関する覚書に署名した。
- ・ A D B は、同プロジェクトの実施のために 1 億米ドルの借款を割り当てる。同行は、STEM（Science、Technology、Engineering、Mathematics）科目のカリキュラム及び教科書の水準、教師の養成及び再訓

練、学校設備の調達、校舎の修繕、教育技術の開発の支援及び改善を行う。さらに同行は、学校生徒を対象とした知識評価システムの改善も予定している。

・同プロジェクトは、2020年～2022年のウズベキスタンの国家事業計画、政府の最近のイニシアチブ、2030年までの公教育システムの発展コンセプトに従って実施される。

(6月10日付 Gazeta)

●米国国際開発庁（USAID）初代ウズベキスタン事務所長の着任

・在ウズベキスタン米国大使館ウェブサイトによると、6月10日、ミカエラ・メレディス（Mikaela Meredith）氏が、米国国際開発庁（USAID）初代「ウ」事務所長に就任した。

・同氏は、USAIDでの約30年の開発（分野）の経験を持っている。USAID「ウ」事務所長就任前、2018年～2021年にUSAIDアルバニア事務所代表、2015年～2018年にUSAIDアゼルバイジャン事務所長を務めた。同氏は、イエメン、ナイジェリア、コンゴ民主共和国、ワシントン（米国）でも役職を歴任した。また、ニューヨークのコロンビア大学国際関係学部で修士号を取得した。

・在「ウ」米国大使館によると、USAID「ウ」事務所は、2020年9月に開設された。「メ」新事務所長の就任は、米国政府の「ウ」政府及び国民に対する長期的コミットメントを強調するものである。

・USAIDと「ウ」とのパートナーシップは、「ウ」独立直後に開始した。1992年から、米国はUSAIDを通して「ウ」の発展を支援するプログラムに5億米ドル以上を割り当ててきた。

(6月11日付 Gazeta)

【その他】

特になし。

3. 広報文化

特になし。